

子どもの競争性と親の養育態度

(分担研究：健康的なライフスタイルの確立に関する研究)

大石 昂* 高澤朋枝

タイプA行動特性の形成に関わる要因として親の養育態度を想定し、タイプA行動特性のうちから特に「競争性」を中心に検討を行った。その結果、子どもの「競争性」は親の競争志向的な養育態度と関連することが示された。

見出し語：タイプA行動特性、パーソナリティ、養育態度、競争性、富山スタディ

はじめに

タイプ A 行動特性については、生得的なものとするかそれとも後天的に形成されるものとするか、研究者によって立場が分かれるが、どちらにしても親のパーソナリティとの関連の検討は重要な研究課題である。さらに、仮に生得的なものと考えたにしても、親の養育行動を通してそれが何らかの強化や修正を被るであろうことはいまでもない。この意味で、子どものタイプ A 行動特性を親の側の何らかの変数に関連付ける試みは重要なものである。たとえば大芦ら（1996）は、子どもに関する親の学歴志向と子どものタイプ A 行動特性の発達に関連性を検討し、子どものいわゆる「受験期」における親の強い学歴志向性が子どもに対する「学習、進学に関する過干渉、過保護」といった養育態度を生み、結果的に子どものタイプ A 行動特性の発達を促進するという仮説を裏付けている。また山崎（1989）は、タイプ A 行動特性の形成要因として親の養育態度を取り上げ、その関連を検討している。彼は親の養育態度を田研式両親態度診断検査を用いて測定し、タイプ A と診断された男児に関しては母親の不安、

溺愛、盲従の各尺度の得点が低く、父親の不安、溺愛、態度の不一致の各尺度の得点が低いこと、同じく女兒に関しては母親の不安尺度の得点が低いことを見出している。しかしこの結果の解釈はやや困難である。特に親の養育態度の測定法についてはさらに検討が必要と思われる。

ところで、タイプ A 行動特性は、Friedmanら（1959）によれば、①time urgency and impatience ② aggressiveness-hostility ③ competitive achievement-striving という3つの下位特性によって特徴づけられる。本研究では、子どものタイプ A 行動特性の形成要因として親のパーソナリティと養育態度を想定し、その関連について検討を行うが、その際、タイプ A 行動特性のなかから特に「競争性」を取り上げ、これと親のパーソナリティ、養育態度との関連について検討を行うこととする。

方法と手続き

競争性に関連する幼児のパーソナリティ要因と親の養育態度についてアンケート調査を実施し、相互の関連について検討を行う。

* 富山大学生涯学習教育研究センター
Lifelong Learning TOYAMA UNIVERSITY)

(Center for Education and Research of

(1) 調査対象

富山県内の幼稚園、保育所に在籍する年中および年長児(4~5歳児)を持つ親

(2) 調査内容

A: 幼児の競争性、攻撃性、社会的向性、情緒易変性について、日本版 MYTH を参考にしながら 21 の調査項目を作成した。

B: 幼児の競争性の発達との関連が考えられる親の養育態度について 16 の調査項目を作成した。

結果と考察

(1) 調査時期

1996年10月

(2) 回収結果

回収率 84.5% (147/174)

性別 月齢		女兒	男児	計
		年中児	55~60	22
	61~66	15	19	34(23.1%)
年長児	67~72	20	15	35(23.8%)
	73~79	23	17	40(27.2%)
計		80 (54.4%)	67 (45.6%)	147 (100%)

Table 1 回収されたアンケートの内訳

(3) 回答の分析

Table-2 に示したように、調査項目 A に関する因子分析の結果、次の 6 つの因子が示された。

- ① 攻撃性：気分が変わり易く、けんか早い傾向
- ② リーダーシップ：努力型でリーダーシップが良く発揮される傾向

- ③ 競争性：周囲との競争を意識しがちで、仕事を早くしようとする傾向
- ④ 小心さ：うろたえがちで心配性の傾向
- ⑤ 自己中心性：依存的で思い通りに事を運びたがる傾向
- ⑥ 社会性：積極的に仲間の中に入ろうとする傾向

次にこれらの因子の負荷量の高い質問項目に対する親の養育態度の質問項目の相関を検討した結果は次のようなものであった。

- ① 第 1 因子である「攻撃性」に関連の高かった項目は、子どもを他児と比較したり子どもに命令することが多いという項目であった。
- ② 第 2 因子である「リーダーシップ」に関連の高かった項目は、子どもに競争性を求めたり子どもをよく褒めることが多いという項目であった。
- ③ 第 3 因子である「競争性」に関連の高かった項目は、子どもに競争性を求める項目であった。
- ④ 第 4 因子である「小心さ」に関連の高かった項目は、子どもに命令的であったり、厳しく統制的に接しがちという項目であった。
- ⑤ 第 5 因子である「自己中心性」に関連の高かった項目は、子どもに競争性を求めるというものと子どもの要求に負けて物を買い与えてしまうという項目であった。
- ⑥ 第 6 因子である「社会性」に関連の高かった項目は、子どもに競争性を求める、子どもの要求に負ける、子どもを褒める、人前ではしっかりした子でいてほしいなどの項目であった。

まとめ

子どもの「競争性」は親の側での「競争性のある子どもに育てたい」というような競争志向的な養育態度と関連を持っていることが示された。また、このような養育態度は、子どもの「リーダーシップ」や「自己中心性」「社会性」とも一定

の関連があった。

「競争性」は、他人志向的なパーソナリティ特性である。この意味で「競争性」については、「自律」との関連においても更に検討を進める必要があると考えられる。

EQUAMAX rotation 1 for extraction 1 in analysis 1 - Kaiser Normalization.

EQUAMAX converged in 9 iterations.

Rotated Factor Matrix:

	Factor 1	Factor 2	Factor 3	Factor 4	Factor 5	Factor 6
A01	.15406	.42687	.32380	-.08417	.22576	-.37638
A02	.17807	.14601	.61057	-.27836	-.15372	.17997
A03	.69335	-.00401	.23984	.03463	.16085	-.11278
A04	.04521	.15885	-.62392	-.06772	-.19107	-.11041
A05	.72421	.00558	.31010	.00123	.03269	.08498
A06	.61402	-.08955	-.05936	.01661	.41405	.41263
A07	.08105	-.17542	-.08758	.02210	.78462	-.03922
A08	.07921	.69333	.31270	-.13899	-.07567	.19752
A09	.75057	.12388	-.02766	.16672	.16602	-.08214
A10	.10135	.35147	.56260	.02771	-.13611	.03860
A11	.69374	.15829	-.08172	.22579	.09659	-.20423
A12	-.09347	.49793	.53718	.34806	.05437	.00039
A13	.09809	-.14263	.05769	.79209	.05454	-.12836
A14	.22100	.59591	.10580	.28987	.20392	-.01870
A15	.11583	.10105	-.05176	.82488	-.00457	-.03555
A16	.06382	.75565	.23269	-.14487	-.21196	.15430
A17	.29513	.25635	.29756	.01202	.58519	-.01627
A18	-.17613	-.19414	-.19261	.27337	.45251	-.52805
A19	.55191	.04079	-.02422	.16950	.31476	-.37997
A20	-.13135	.24642	.17660	-.08419	.08804	.70425
A21	-.09438	.66689	-.14677	.01241	-.12801	.27022

Table-2 調査項目 A, B に関する因子分析



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



タイプA行動特性の形成に関わる要因として親の養育態度を想定し、タイプA行動特性のうちから特に「競争性」を中心に検討を行った。その結果、子どもの「競争性」は親の競争志向的な養育態度と関連することが示された。